

平成 27 年 10 月 1 日発行
No.292

Shining

シャイニング

発行元：社会福祉法人 拓く

TEL 0942-27-2039

FAX 0942-27-2086

<http://h-polepole.com>

柳川療育 センター研修

医療的ケアに対応できる支援体制を

当法人では、通所者・入所者が安心して地域生活を送るための体制づくりとして、障がい児者の高齢化・重度化に対応した支援の充実・強化を図ることに取り組んでいます。その取り組みのひとつとして、医療的ケアに対応できる支援体制の整備を進めているところです。

久留米市でも、痰の吸引や経管栄養などの日常的な「医療的ケア」が必要な児童を事業所で夜間預かる「医療的ケア短期入所」を支援する事業を平成 23 年度から始めています。今回、当法人がこの事業を受託することになり、柳川療育センターにて「医療的ケア」の知識や技術を学ぶことを目的に研修することになりました。柳川療育センターは、重症心身障害児（者）の入所施設で、リハビリテーション、療育等も行っています。研修は2日間で、9月に計2回、当法人から6名の職員が参加しました。

1 日目は、午前中オリエンテーション、午後からは、自分自身が利用者になり機械浴を体験させてもらったり、食事介助をさせて頂いたりしました。2 日目は、担当の指導者について「医療的ケア」の必要な方のケアをさせて頂きました。2 日間という短い研修期間でしたが、私にとってはとても充実した2日間でした。

五感の重要性や姿勢の大切さ、その人の立場になって考えるのではなく、その人自身になって考えないと気付かないことがあるということ、また経験や体験を通してその人の生活の質が向上することなど、あらためて考えさせられる機会となりました。

また、安心・安全・快適に日々の生活するための環境設定や、衛生面、感染予防について、学ぶべき点もたくさんありました。

今回、柳川療育センターで学ばせて頂いたことを今後の当法人の医療的ケアに対応できる支援体制の整備にいかしていきたいと思えます。

(担当 鹿子島 功子)

グランドゴルフ に参加して

幅広い世代との交流

9月17日(木)、お天気にも恵まれ秋晴れの広がる中、安武校区福祉部グランドゴルフ大会が開催されました。安武校区を支え盛り立てていらっしゃる方々(社会福祉協議会、人権啓発協議会、民生委員など)が多数参加され、ポレポレスタッフも混ざり合い、幅広い世代との交流、親睦が図られました。交流会と言っても、そこはスポーツ。皆さん、真剣なまなざしでボールをみつめ、勝負師の顔に。チームの好プレーに声を上げ盛りあがりました。

スポーツを満喫した後は、表彰式、懇親会が行われ、更に親睦を深めることができました。人と人とのつながりの大切さ、ポレポレと地域とのつながりを改めて知る機会となりました。



リレートーク

ポレポレ祭りまで 一か月を切りました

早いものでポレポレ祭りまで残すところ一か月を切り、慌ただしい時季を迎えました。昨年に引き続き今年もポレポレ祭りの広告・協賛を担当させていただいております。お陰様をもちまして今回も前回同様の実績を達成する見込みとなりました。これもひとえに皆様おひとりおひとりのご尽力ご協力の賜物と感謝しております。本当にありがとうございました。

その広告などの入ったパンフレット、近々完成する予定ですが、今年はパンフレット係が表紙をカラーの写真で飾る試みを行っております。完成しましたら、お手元に届けさせていただきます。また、お祭りに足を運んでいただけの方を増やしていく目的で今回より広告だけでなく協賛をいただいた方にも金券をお配りいたします。そちらの方も楽しみいただければ幸いです。(担当 内田 佳寿)



研修報告

誰もが暮らせる地域づくりフォーラム2015

9月13日(日)、伊丹市で行われた「誰もが暮らせる地域づくりフォーラム2015」に行ってきました。

午前は最強の三人と言われるバクバクの会編集長の平本歩さん、医療的ケア連絡協議会代表の岸本彩さん、NPO法人ボムハウス代表理事の折田涼さんの、「自分らしく」を追究してきたそれぞれの物語を聞かせていただきました。重度心身障害者と言われる3人は豊かな子ども時代を過ごされ、現在は「地域の住人」として一人暮らし(24時間2人態勢で一ヶ月1488時間が必要)をされています。折田さんは、「呼吸器、アンビューバック(患者の口と鼻から、マスクを使って他動的に換気を行うための医療機器のこと)は医療的ケアに必要な特別なものではなく生活介助に必要なものであって、親だけでなく誰もが使い、手助けできるようになるためのケア研修が行われるようになった時、初めて一人の人として認められた気がする」と話されました。午後からは青野浩美さんの素敵な歌声と語り、高校生のドラムの演奏に引き込まれました。問題を抱えた社会の中で障害を抱えた彼らが困難を乗り越えながら自分の夢に向かって一生懸命生きていく姿に圧倒されました。誰もが当たり前「地域で生きる」ことの実現に向かって私も繋がっていききたいと思えます。元氣と勇気もらった研修会でした。(担当 森田さかえ)

